

議 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ認証現地審査 自殺予防対策委員会	
日 時	令和5年8月1日（火）14:00～15:00	
場 所	久留米シティプラザ5階 大会議室	
出席者	委 員	内村委員長、大治副委員長、熊本委員、寺崎委員、一丸委員、棚町委員、渡邊委員、吉村委員、大下委員、清水委員、岡村委員、新谷委員、倉富委員
	事務局	伊藤主幹、近見補佐、池田、長尾
欠 席 者	石井委員、漆原委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. プレゼンテーション発表 「自殺予防対策委員会の取り組みについて」 4. 質疑応答 5. 閉会 	
質 疑	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心推進課事務局より開会 <p>2. 出席者紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心推進課事務局より審査員・オブザーバー・アドバイザー・自殺予防対策委員会の紹介 <p>3. プレゼンテーション発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内村委員長より「自殺予防対策委員会の取り組みについて」プレゼンテーション <p>4. 質疑応答</p> <p>ジョニー・ペ先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを使ってわかりやすく説明してもらった。私も韓国でメンタルヘルスセンターに籍を置いているので、とても興味深かった。前回は審査員をさせてもらったが、そのときと比べてもネットワークの拡がりや支援体制の充実、委員会のメンバーの増員などが見えたのが嬉しい。 ・50歳代男性がハイリスク集団で、コロナ禍での経済的問題が自殺に影響したのではないかという報告だったが、韓国でも似たような傾向にあり、非常に丁寧に分析しているのがわかった。自殺は年代によって、主な原因が変わってくる場合も多いので、その部分にアプローチしているのがよかった。 ・自殺の原因としては、子どもは学校の勉強やいじめ、若者は就職難や職場の人間関係、中高年は経済的な問題、高齢者は健康問題が大きく関わってくる。今回報告いただいたものは、年齢・特徴に応じた対象・取り組みを適切に設定できており、だからこそ成果があげられていると感じた。 	

議 事 録

	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国での取り組みを紹介すると、メンタルヘルスセンターにおいても中高年の自殺が多いということで、企業と協定を結んで、職場でのストレスをどのように軽減するかということで取り組みを始めている。例えば、勤務中に病院に行けない、カウンセリングを受けにくい状況があるため、企業とタイアップすることで、いかに勤務中に受けてもらいやすくするかということと話合っている。高齢者においては、身体的な問題も増えてくるため、そういった問題に関わる人はいかにゲートキーパーになってもらうかということに取り組んでいる。 ・今回、書類審査を担当している副審査員からのコメントは、自殺予防はメンタル面も関わっているので非常に難しく、どのようにより多面的な情報を収集するかが一つのチャレンジになってくると思うが、自殺企図者（自殺未遂者）の情報は集められるのか。久留米市ではどのようにしているか、情報を集められているのであれば状況を教えてほしい。
<p>委 員 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺企図をして救急病院に搬送されたとき、その方の情報が得られるような仕組みづくりをして、もし精神的な問題があるようなら精神科につなげるように、救急病院と精神科の連携をしている。もし、その場で精神科受診を勧めてもなかなか納得しない場合は、その後保健所の相談窓口につないだり、あるいはその家族に対して精神科受診を勧めるなどして、自殺未遂者の再企図を防げるようしている。救急病院と精神科と行政が会議を開き、実際にどのくらいの方が自殺企図を起こして精神科に紹介されたか、あるいは元々ある連携システムを利用して、一旦かかりつけ医に紹介し、かかりつけ医から精神科医に紹介されたかなどを情報共有している。自殺で亡くなった方の中で自殺未遂歴があったかというデータもとっており、自殺で亡くなった方の3割は自殺未遂歴があるというデータが出ており、特に女性の4割強は自殺未遂歴があるという結果だった。そこで自殺企図を起こした段階で、できるだけ精神科につながるような仕組みづくりに取り組んでいる。
<p>ジョンイ・ペ先生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私もメンタルヘルスの専門なので、こういった取り組みが非常に重要なことだと評価する。 ・昨年韓国でも全国的な調査を行い、興味深いデータがあったので紹介したい。全国の自殺企図での救急搬送データをみたところ、初めて自殺企図をした方は、6ヶ月以内に再企図を試みる傾向があることがわかった。そのため、初めて自殺企図を起こしてから6ヶ月というのは、集中的に介入していかないといけない時期だということがわかった。また2回目の自殺企図をするときは、再企図をすることにためらいがあるため、アルコールなどで自分を酔わせ、判断力を鈍らせておいて、自殺企図をするという傾向があった。

マイケル・ウィルソン先生	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の中にもあったと思うが、もう一度確認させてほしい。自殺企図の方法に非常に関心があり、首吊りが一番多いという結果が出ていたが、環境面にアプローチすることも重要だと考えている。首吊りの予防はなかなか難しいと思うが、その中でもこういったことはできるのではないかと思うことはあるか、また他に環境面でアプローチできることがあれば教えてほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺既遂者は精神科の既往歴が少なく、自殺企図を繰り返さずに1回目で確実に死ぬ方法を選んでいる。その方法としては、首吊りや飛び降りが多い。なかなか病院にも行かないし、繰り返す前に死を選ぶ覚悟を持っている方が多い。先ほども説明したように、首吊りや飛び降りはどこでもできてしまうことから、予防することは難しいが、自殺を覚悟した状況を、家族や周りの人がいかに気づいてあげるか、いわゆるゲートキーパーとなり、行動変化に気づいてあげることが重要である。そして、精神科医療につながることで少しは予防ができるのではないかと思うので、ゲートキーパーの裾野を広げていきたい。またプレゼンテーションの中でもあったように、30歳以上の男性は悩みを打ち明けないため、悩みを打ち明けることは大切だということを啓発していく、そういった総合的な対策が重要であると考えます。
ジョンイ・ペ先生	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて素晴らしい報告だった。ありがとうございました。

	No	助言・指摘事項・課題
指摘事項等	1	自殺企図者（自殺未遂者）の情報は集められるのか。 情報を集められているのであれば状況を教えてほしい。
	2	自殺予防のためには環境面にアプローチすることも重要だと考えている。 首吊りの予防はなかなか難しいと思うが、その中でもこういったことはできるのではないかと思うことはあるか、また他に環境面でアプローチできることがあれば教えてほしい。
		【情報提供】 ・年齢や特徴に応じた対象・取り組みを適切に設定できており、だからこそ成果があげられていると感じた。 参考までに韓国の取り組みを紹介する。韓国でも中高年の自殺が問題であり、企業と協定を結び勤務中にカウンセリングを受けやすくするなど、職場でのストレスの軽減取り組んでいる。
		【情報提供】 ・昨年実施した韓国での全国的な調査結果で、初めて自殺企図をした方は6ヵ月以内に再企図を試みる傾向があった。初めて自殺企図してからの6ヵ月は集中的に介入する必要があることが分かった。